

「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に

FREE THE
CHILDREN

児童労働シミュレーションカードゲーム 進め方の手引き

目次

【はじめに】	2
【FREE THE CHILDREN（フリー・ザ・チルドレン）について】	3
【働かされる子どもたち】	4
【教材の使い方】	5
■ねらい・概要	5
■ゲームの準備	6
■ゲームの進め方	8
■ゲームの振り返り	10
■参考.....	13

データ資料集はフリー・ザ・チルドレン・ジャパンのウェブサイトよりダウンロード下さい。
URLへアクセスし、パスワードを入力すると、教材一式がダウンロードできます。
教材の進め方のイメージ動画等もご用意しております。ご活用ください。

—— ダウンロード可能データ ——

- ・手引き書(本書データ版)
- ・ワークシート
- ・子どもの権利条約A4リーフレット
- ・子どもの権利条約冊子データ（同封の教材⑥と同じデータになります。）
- ・フリー・ザ・チルドレンを設立したクレイグ物語
- ・児童労働に関する写真とケースストーリー

ウェブサイト⇒ <https://ftcj.org/we-movement/texts/childlabor-dl>
パスワード：childlabor-dl1999

【はじめに】

この度は、Free The Children Japan(フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、以下 FTCJ)の児童労働シミュレーションカードゲーム教材をご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

この教材を通して、貧困の中、人生をなんとか生き抜いている子どもの状況に、少しでも思いを馳せていただく機会になればと思っています。このゲームは、ストリートチルドレンや過酷な労働に従事する児童労働者の存在を知る「きっかけ」になることを狙いとしています。

最初、参加者はゲーム感覚で楽しくワークショップに参加することになるかと思いますが、進行役（ファシリテーター）は、ゲームが終わってから、カードに描かれている子どもたちが世界には実在していることを説明し、振返りの時間を持ってください。振返りでは、ワークシートのご活用や、映像を使う、実際の例を読み上げるなどのプログラムを組み込み、児童労働やストリートチルドレンの非常に厳しい現実を参加者に感じたり考えたりしてもらえるようになっていきます。

また、よりよい教材作りのため、ご感想や、ご意見などを FTCJ 事務局までお寄せいただけますと幸いです。御不明な点は、どうぞお気軽にお問い合わせください。

最後に、FTCJ としてこのカードゲームをつくるにあたり石川県の「フェアトレードくらぶ」様からカードの基礎情報をご提供頂きましたことをここに記すとともに、ご協力に心より感謝申し上げます。また、そのほかお手伝い下さったたくさんの皆様にも、お礼申し上げます。

世界中の子どもが、貧困から抜け出し、子どもの権利が守られるような世界を皆さまでともにつくりたいと思いますので、どうぞ引き続きよろしくお願ひします。

Be the Change!

認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン教材開発チーム

【フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTCJ)について】

フリー・ザ・チルドレンは、1995年カナダ人の当時12歳のクレイグ・キール—バーガーという少年が、ある新聞記事を読んだことによって設立された国際協力団体です。その新聞記事は、絨毯工場での児童労働から解放されたパキスタン人のイクバル君（当時12歳）が、児童労働廃絶を訴え活動していたところ、そのことを良く思わないパキスタンの権力者によって射殺されたことを報道するものでした。

自分と同年のイクバル君が自由をつかんだ矢先にわずか12歳で殺されたという記事を読み、怒りと衝撃を受けたクレイグは同じ子どもとして何かしたいと強く思い、「Kids Can!子どもを助けられるのはおとなだけじゃない!」を合い言葉に、子どもによる国際協力団体を設立しました。フリー・ザ・チルドレンの理念を広めるため、日本でも1999年より活動を開始しました。

私たちは、子どもに関わる問題は、子ども自身が声をあげることで変化が生まれると考えています。そして、何よりも、「子どもには、変化を起こすチカラがある」と信じています。子どもや若者が、自分の持つ最大限の力を発揮して、貧困や児童労働のない世界をめざし行動を起こせるよう、多くの方々となつがってこれからも環境づくりに取り組んでいければと思っています。

●団体がめざす社会（ビジョン）

私たちは、世界中のすべての人々が「誰一人取り残されることなく」社会に参加し、国籍・宗教・年齢・性別・障害・文化に関係なく、違いや個性が尊重され、互いに勇気づける多様性のある社会づくりをめざしています。

●使命（ミッション）

～2つの「Free」を実現すること～

- ・国内外の貧困や差別から子どもをFree（自由）にすること。
- ・「子どもは無力だ」という考えから子どもをFree（自由）にすること。

●活動・事業

2つのミッションを実現するために、5つの事業を展開しています。

1. 子ども主体事業
2. 子ども活動応援（育成）事業
3. アドボカシー事業
4. ネットワーク事業
5. 国際協力・国内子ども支援事業

*政治的、宗教的な偏りは一切ありません。

*2004年9月にNPO法人として都庁より認証されました。

*2012年3月に認定NPO法人として国税庁より認定されました。

*2017年3月に認定NPO法人として東京都より認定されています。

【児童労働とは～働かされる子どもたち～】

児童労働とは、働くことで心や体が傷ついてしまうような、子どもにとって害のある仕事のことをいいます。例えば、学校に通うことができずに働かされたり、法律で禁止されている危険な仕事に子どもが関わっていたら、それは児童労働です。つまり、児童労働は、子どもの権利を奪う、子どもにとって有害な労働のことです。

2021年6月に発表されたILO（国際労働機関）とユニセフ（国連児童基金）の2020年の推計によると、世界には1億6000万人の子どもが児童労働に従事しています。2016年から4年間で840万人もの増加がみられました。これは、世界の子どもの10人にひとりにあたります。残念ながら、20年ぶりに児童労働者数は減少傾向から増加に転じてしまいました。新型コロナウイルスが世界規模で感染拡大し多くの貧困家庭で親の収入が減少したことで、今後さらに児童労働者数が増えることが危惧されています。



■どんな仕事をしているの？

多くの子ども(70%の児童労働者)が農業分野で働いています。農業は子どもにとって非常に重労働で危険な仕事です。炎天下のなか体に害のある農薬や肥料をあつかったり、鋭い刃物で収穫作業をしたり、重たい収穫物を運んだりしなければいけません。日本は約60%の食糧を海外からの輸入に頼っています。私たちは子どもが関わった食料を知らないうちに食べているかもしれません。



児童労働の種類
(ILO ユニセフ報告書 2020)

■収入はどのくらい？

8時間以上働いても1日1ドル(110円)も手に入らない場合が多くあります。子どもが長時間働いても収入が低いのは、年齢が低くおとなに利用され搾取されてしまうからです。

例えば・・・

実際に私たちが出会った児童労働者のケースの一例：

>>フィリピンのごみ山でゴミ拾い・・・【収入】運が良ければ1日100円以上稼げる。

>>インドの靴工場で働く・・・【収入】1日8時間働いて約100円。

>>鉱山で金を採掘する・・・【収入】300円以上もらえることもあれば、全く稼げないときもある。

※各国とも日本と比べて物価は安いものの、100円の価値は1日どうにか2食ご飯が食べられる程度で、衣類や住居、教育を受ける余裕には至らないことが大半です。

【教材の使い方】

児童労働シミュレーションカードゲームの使い方とともに、理解を深めるワークショップをご紹介します。時間や人数に合わせてご活用ください。

■ねらい・概要

貧困のなか劣悪な環境で暮らし、働かなければ生きていけない子どもたちの生活サイクルを、カードを通して体験し、そのような環境下にいる子どもたちについて考え、理解を深める。

○対象人数 適正人数 25～35人（40人前後まで対応可能）

※適正人数外で実施する場合はカード枚数の調整がお勧めです。

※詳細は、ゲームの準備をご覧ください。

○対象 小学校中学年以上

※ゲームセクションは、「1. カードを引く。 2. カードの指示どおりの行き先へ移動する。 3. それを繰り返す。」という単純な構造になっています。

○セット内容

- ①児童労働シミュレーションゲーム進め方の手引き（本書）
- ②カードの種別とゲームの構成について（A4サイズ1枚）
- ③児童労働ゲームカード
（カード(名刺)サイズ：全17種類、249枚）
※各枚数は②をご参照ください。
- ④ゲームのカテゴリカード（A4サイズ：全11枚）
- ⑤仕事の内容カード（組み立てポップ：全11枚）
※山折りにして立ててご利用ください。
- ⑥子どもの権利条約冊子
- ⑦データ資料集
フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
のウェブサイトよりダウンロードいただけます。



教材紹介ページから、購入者様のバナーをクリックし、パスワードを入力下さい。

- ・ワークシート
- ・子どもの権利条約A4リーフレット
- ・子どもの権利条約冊子データ（同封の教材⑥と同じデータになります。）
- ・フリー・ザ・チルドレンを設立したクレイグ物語
- ・児童労働に関する写真とケースストーリー

ウェブサイト⇒ <https://ftcj.org/we-movement/texts/childlabor-dl>

パスワード：childlabor-dl1999

■ゲームの準備

1. 部屋の壁、机、いすなどを利用して、④ゲームのカテゴリカード（A4 サイズ 11 枚）を設置する。※“自立”と“死”は、離れたところに設置するのがおすすめです。
次に、④に該当する⑤仕事の内容カード（ポップ）を置いていく。④の「盗む」は3種類、「物乞い」には2種類、「働く」には6種類のポップがあります。



2. ⑤仕事の内容カード（ポップ）の前に③児童労働ゲームカード（名刺サイズ）を種類ごと（左上の仕事の内容ごと）に分けて設置します。カードは裏向きで置き、“自立”と“死”のカードは、カードの束の半分より下の方に入れておく。（下参照）



カードの山札を作る際に、ゲームが1枚引いて終わらないようにするために、右下に「自立」と「死」のマークがあるカードは抜き出し、山札の真ん中より下に来るように並べ替えます。



3. ③児童労働ゲームカード（名刺サイズ） 選択肢のうちの買春を除いた 10 種類から、山札の上からカードを、参加者の人数分とっておく。

(例えば参加者が 20 人なら、“農作物を盗む” “ ” スリ “ ” 万引き “ ” 駅で物乞い “ ” 観光地で物乞い “ ” ゴミひろい “ ” レンガ工場で働く “ ” 家事労働をする “ ” 道路工事をする “ ” 収穫作業をする “から自立と死のマークがないカードを 2 枚ずつ取っておく。)

※適正人数外のゲームの進め方案

●人数が 20 人以下と少ない場合 予め③の児童労働ゲームカードの枚数を減らすか、終了カード（死や自立）を中盤に多めに入れるなどして、調整してください。引くカードが多すぎると、カードの種類が多すぎて、振返りが大変になる可能性があります。

●人数が 40 人以上の場合 2 人または 3 人一組になってカードを引いてください。その場合、カードを取りに行く人は一人だけにして残りの人は待機するように伝えたほうが混雑しません。または、交代でカードを取りに行くようにすると良いでしょう。

※小学生を対象にゲームをする場合は、「性産業で働く」の意味が理解できなかつたり、不安に感じたりする可能性があるため、性産業で働くのカードと、性産業で働くことを指示するカードすべて（全 14 枚あります）を抜かしておくとい良いでしょう。

■ゲームセクションの進め方

※ゲームセクション（振返りを含めない）の所要時間は30人で10分程度が目安です。

1、導入

進行役(ファシリテーター)は、「あなたは家族から離れ、貧困などが原因で路上で1人で生活しなければいけない10歳の子どもです。あなたは、一人で人生を生き抜かなければいけません。生きるためには食べていかなければいけません、どうやってあなたは食べ物を手にするでしょうか。」などと、参加者に投げかけ、想像の時間をもって下さい。

2、説明①

家族と離れ1人で生活する子どもとして生きていくためには、大きく分けて“盗む” “物乞い” “働く（違法な労働/認められてない労働）” の三種類の手段があることを説明します。投げかけ例：「読み書き計算がちゃんとできず、誰かに正式に雇ってもらうこともできず、そもそも働くことが何かをよくわかっていない、そういった状況で生き抜くためには、次の三種類の選択肢から始めるしかありません。それは、“盗む” “物乞い” “違法に働く” です。お腹がすいて辛くて眠ることも難しいなか、何とか生き抜くためには盗みをするか、物乞いをするか、違法に働くしかない子ども達が世界にはたくさんいます。」

3、説明②

次に、“盗む” “物乞い” “働く” に属する仕事の内容の全11種類の選択肢の説明文を読み上げて下さい。②カードの種別とゲームの構成についてに、選択肢の説明が書かれています。

4、カードの配布

「ゲームの準備の3」で別にしておいたカードを参加者に配ります。これが参加者にとって最初の1枚目のカードになります。

※この時、“性産業で働く”のカードは最初のカードとして配りません。その理由は、自ら進んで性産業で働くことを選ぶ子どもは殆どいないからと必要に応じて説明する。

（「家事労働」だと騙され、家に行ったら買春宿だったという実例などがあります。）

5、カードの引き方説明

配ったカードを読んでもらい、そのカードに書かれている指示に従って、次のカードを取りに行くよう伝えます。その際、カードは上から1枚引くように説明します。また、引いたカードは引いた順番通りに持っているように指示して下さい。

6、ゲームの終わり方、その他

カードの指示で、「自立」か「死」のカードが出たらゲーム終了です。④ゲームのカテゴリカードの「自立」や「死」のところへ移動し、座って待機するよう伝えます。

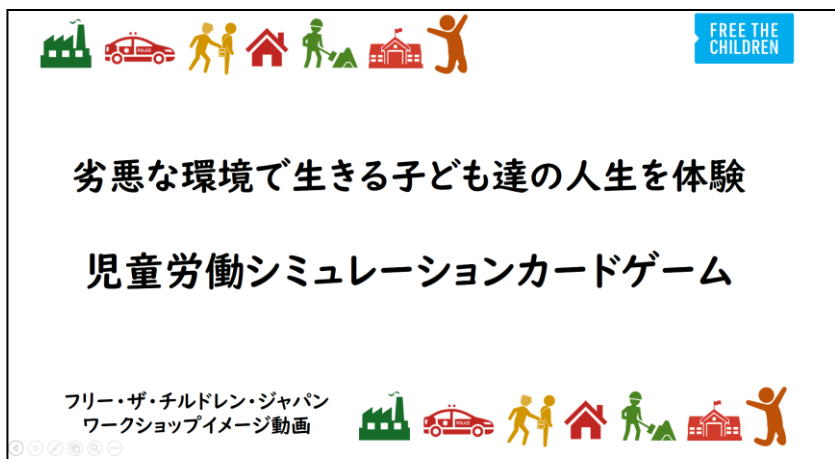
※「働く」「物乞い」「盗む」から1枚選ぶカードが出た場合は、その種類から好きなものを引くよう伝えます。

7、ゲームの開始

「ゲームスタート！」の合図で、カードの指示に従ってカードを取りに移動するよう指示します。カードの指示の行った先に引くカードが無くなったら、ゲーム終了です。カードの束が無くなり

はじめた頃合をみて進行役(ファシリテーター)はゲームを終わりにし、振返りへと進めてください。(ゲームは人数によりますが、5～10分程度が目安です)

参加者の動き、準備について、簡単な動画を作成しております。
データ資料集と同じページに掲載しております。



イメージ映像としてご覧ください。

ウェブサイト⇒ <https://ftcj.org/we-movement/texts/childlabor-dl>

パスワード：childlabor-dl1999

■ゲームセクションの振り返り

児童労働シミュレーションカードゲームは、ゲーム終了後のふりかえり（シェアリング）がもっとも重要です。

1、カードの振り返り：1グループの人数：4人程度 / 所要：5～10分程度

ゲームセクションが終了したら、参加者同士でグループを作り、どのような人生であったか共有するよう伝えます。（人数が少ない場合はそのまま全体で共有する。）自分の人生で、印象に残ったことをシェアしてもらいましょう。

2、事例紹介： 所要5～10分

進行役(ファシリテーター)は、**⑦データ資料集**の「写真&ケースストーリー」のデータを見せるなどし、実際の事例を紹介してください。カードに出てくるストーリーが、架空のことでなく、実際に起きているということを参加者に感じてもらうことが目的です。

3、振り返りワーク（子どもの気持ちになって感想を書く）： 所要5～20分

参加者にカードゲームで疑似体験した人生を振り返り、次の3つの気持ちについて考えるよう伝えてください。**⑦データ資料集**のワークシートを活用ください。

◆進行例：

「あなたがゲームで体験した人生を振り返り、次の3つの気持ちについて考えて、感じたことをシートに書いてみましょう。みなさんが疑似体験したカードの内容は、作り話ではなくて、実際に世界の子どもたちに起きていることです。そのことを踏まえ、引いたカードの人生を送ったとしたら、どう感じたかを考えてみましょう。」

- ① つらかったこと・悲しかったこと
- ② 嬉しかったこと・楽しかったこと
- ③ やりたかったこと・こんな助けが欲しかった

※この際、参加者から出た意見や感想に対して、なぜそのように感じたのかを聞いてみると良いでしょう。

その後、授業時間に応じ、グループでの共有、全体での共有をします。

※カードの内容は様々なのでなるべく参加者がどんなカードを引いたのかを簡単に共有するよう促しましょう。

4、子どもの権利条約の説明： 所要10～20分

振り返りで出た感想を踏まえて、**⑥子どもの権利条約の冊子** もしくは、**⑦データ資料集内子どもの権利条約** を参照しながら「子どもの権利条約」について説明してください。

進行例：「すべての子どもは生まれながらにして、子どもの権利をもち、一人の人間として尊重されるべき尊い存在です。（参加者が18歳未満の子どもの場合）ここにいる皆さんも全員、「子どもの権利」を持っています。権利とは、子どもが自分らしく、のびのびと成長していくために、当たり前持っている大切なものです。例えば、お腹がすいたら食事をする、喉が渴いたら水を飲む、眠くなったらゆっくり休む、トイレに行きたければいつでも行ける、病気になったら治療を受ける、成長するために必要な勉強を学ぶ、あらゆる暴力や差別から守られる、子どもに関わることに對して意見や気持ちを伝えるなど、です。他にも色々な権利があるのでみていきましょう。もし、これらを奪われるようなことがあれば、皆さん子どもは助けを求め声をあげることができます。そして、周りのおとなや政府は、子どもが権利を取り戻せるようすぐに対応しなければ

ばいけないのです。でも、実際にゲームにあった子どもたちの状況はどうだったでしょう。子どもの権利は守られていたでしょうか？」

—— 子どもの権利条約の説明を挟む ——

進行例：「カードゲームで皆さんが体験した子どもにとって、守られていない権利や、守られていた権利は何だったでしょうか、書き出してみましょう。」などと問いかけます。

3の振り返りワーク（子どもの気持ちになって感想を書く）で行った「3つの気持ちを考える」で出された感想の中には、子どもの権利が守られていれば、辛い思いや悲しい思いをしなくて済んだものがあつたはず。例えば、「暴力でケガをしたのに、治療を受けられなくて辛かった」という感想があつた場合、第24条は守られていなかったことがわかります。この様に、書きだした感想と権利を照らし合わせてみると良いでしょう。進行役(ファシリテーター)は感想と、子どもの権利条約の項目とを照らし合わせて、児童労働や路上で生活する子どもの生活が、いかに子どもの権利が守られていないかを参加者が理解できるようにします。

- 5、私たちにできることを考えよう： 所要5～15分（時間がなければ次回にまわしてもOK）
日本にいる私たちが、児童労働問題を解決するためにできることを考えます。どんなことができるかを参加者に問いかけ、自分たちにできることを話し合ってもらいましょう。

ここで進行役(ファシリテーター)は、参加者に「児童労働は、なくせます！」というメッセージを伝えることが重要です。一人ひとりがこの問題を知り、解決に向けてアクションを起こせば、必ず児童労働はなくせます。私たちの想いとアクションが世界を変えることができるのです！一緒に世界を変えていきましょう。と、伝えてください。

※子どもには何もできない、おとなや専門家がやることなんじゃないの？というような意見が出たら、フリー・ザ・チルドレンが設立されるきっかけとなったパキスタン人のイクバル君（絨毯工場で4歳～10歳まで6年間奴隷のように働かされていた少年）と、フリー・ザ・チルドレンの12歳の創設者クレイグのストーリーを紹介する。

→データ資料集にある「フリー・ザ・チルドレンを設立したクレイグ物語」を参照下さい。

→フリー・ザ・チルドレン・ジャパンレンのYouTubeチャンネルに

様々な児童労働について学べる動画がありますので、あわせてご覧ください。

 [Free the Children Japan - YouTube](#)

- 6、最後に、引いたカードはもとの場所に返してもらおう、もしくは回収します。

■授業フォロー案

- ・ 児童労働やストリートチルドレンに関連する動画を上映する。
- ・ 児童労働に関する本から事例を抜粋して紹介する。
- ・ 児童労働に関する本を紹介して夏休みの読書感想文に提案する。
- ・ 世界の児童労働の現状を調べ学習する
- ・ 児童労働をなくすためのアクションを考える。
- ・ 実際に、カードの中に出てくる働く子どもの体験を試してみる。 など。

例：レンガ工場で働く子どもは、1つ5キロの重さのあるレンガをいっぺんに3つ運ぶなどの仕事を繰り返し毎日しています。ペットボトルなどで合計15キロの重さのものを用意して、参加者にそれらを運んでもらい体験するときを持つと、より、児童労働の大変さが理解できます。

■参考

▼おすすめの本

フリー・ザ・チルドレンの創設者クレイグに関する本や、児童労働に関する本の情報は、FTCJのウェブサイトにございますので、ご覧ください。

⇒ <https://ftcj.org/we-movement/books>

▼その他教材について

FTCJのウェブサイトにて、無料・有料教材についてまとめたページがございます、ご覧ください。

⇒ <https://ftcj.org/we-movement/texts>

国内外の社会問題を学び解決に向けたアクションを起こすための「FTCチェンジメーカー教育プログラム」の無料教材のご提供や出張授業も実施しています。ぜひご活用ください。

⇒ <https://ftcj.org/we-movement/changemakerseducationprogram>

▼社会問題についての導入ページ

児童労働問題以外にも、国内外の社会問題についての導入ページをご用意しておりますので、授業にあわせてご活用、ご覧ください。

⇒ <https://ftcj.org/we-movement/issues>

▼SDGs（持続可能な開発目標）と FTCJ

SDGsの17の目標についての情報や、SDGsに対して、特に私たちフリー・ザ・チルドレン・ジャパンが取り組んでいる目標について紹介しているページです。

⇒ <https://ftcj.org/we-movement/sdgs>

▼FTC創設者クレイグ物語

世界の貧困や搾取から子どもを解放するために、12歳でFree The Childrenを設立したクレイグの物語を紹介しているページです。子どもでも児童労働廃絶に向けアクションを起こすことができることを伝えられます。

⇒ <https://ftcj.org/about-us>

▼出前授業・講師派遣

FTCJでは、国内外の社会問題をジブンゴトとして捉え、それらの問題の解決に向けたアクションを起こせるよう、スタッフによる出前授業や講師派遣を実施しております。ご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

⇒ <https://ftcj.org/we-movement/facilitator>

「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に



特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-6-5 安藤ビル 3F

<https://ftcj.org/>

Tel : 03-6321-8948 E-mail : info@ftcj.org